

自分のことは自分で守る、PTA主催高田北城高等学校防犯セミナー

—— 普段の危機意識を高め、いざというときに対応できる子を育てる ——

県立高田北城高等学校 校長 田 中 憲 一
〒943-8525 新潟県上越市北城町2-8-1 Tel (025)522-1164

I 学校の規模及び地域環境等

1 学校規模

(1) 学級数

	1年	2年	3年	合計
生活文化科	2	2	2	6
普通科	5	5	5	15
合計	7	7	7	21

(2) 生徒数（平成17年5月1日現在）

		1年	2年	3年	合計
生活文化科	女	80	81	79	240
	男	69	80	65	214
普通科	女	133	117	134	384
	計	202	197	199	598
合計	男	69	80	65	214
	女	213	198	213	624
	計	282	278	278	838

(3) 教職員数

	校長	教頭	教諭・養教	講師	実習助手	非常勤講師	事務職員	学校技術員	合計
男	1	1	48	1	1	5	0	2	59
女	0	0	19	1	0	6	3	0	29
計	1	1	67	2	1	11	3	2	88

2 地域環境

本校は、新潟県の南西部に位置する上越市にあり、市の中心部にある高田公園の外堀に面して設置されており、周辺は豊かな自然や多くの文化施設等があり恵まれた環境にある。しかし、夜ともなると人通りも少なくなり、安全とは言い難い。

また、近年、この地域では、不審者、変質者が出没し、対応に苦慮している。当地区では、不審者が現れた等の情報は、FAXで地区の高等学校等に伝達するというシステムがあり、今年度に入っ

てからのFAXは本校分を含めて、20件を越えた。

また、本校に通ってくる生徒の居住範囲は、西は富山県境、南は長野県境等、上越地域一円に広がっており、すべての生徒の安全をカバーするような体制づくりは困難である。

3 本校の状況

平成15年に、本校の校門前で登校中の女子生徒に不審者が抱きつくという事件があった。また、校地内に不審者が侵入し、下半身を露出するということがあった。女子生徒が多い本校では、放置しては重大な事故につながりかねないという危機感から、不審者の侵入した校地北側にフェンスを設置した。さらに、部室が荒らされることも重なったので、部室の窓に鉄格子を入れた。

本校では、不審者情報が入る度に、SHR（ショートホームルーム）で担任が注意している。SHRでは遅いというような場合は、全校放送で、状況を説明し注意を呼びかけているが、いくら注意を呼びかけても、生徒の安全面で不安が残る。

また、校舎の構造上も防犯上の問題があった。そこで、平成16年3月より、生徒玄関、裏門、部室棟に防犯カメラを設置し、校地・校舎内への不審者等の侵入に備えることにしたが、カメラがあるからといって、安全とは言い難い状況にある。

II 取組のポイント

- 1 PTA主催の生徒のための防犯セミナーの開催
- 2 女子生徒が多いことから、女子生徒に関わる犯罪事例を中心にした講演を実施
- 3 危険回避と非常時への対応ができることを目指した指導
- 4 簡単な護身術のデモンストレーションと実技指導の実施

Ⅲ 取組の概要

1 取組の趣旨やねらい

(1) 防犯セミナーの実施に至るまで

本校は、当初は女子校として設立されたためか、現在でも男子生徒に比べ、女子生徒が圧倒的に多い。不審者はほとんどが男性で、被害に遭うのは女子生徒ばかりである。通学地域の広さや不審者等が車で移動するという状況から、いつどこで、子どもが被害に遭っても不思議ではないという認識が多くの保護者にあった。本校PTAは役員が3つの委員会を作っており、その中の生活委員会で、平成16年度の事業を検討したとき、「不審者に対する対策を何かできないか」という話がでたことから、小・中学校で多く行われている防犯教室を高等学校で実施するよう学校に申し入れがあった。

(2) 防犯セミナー実施の趣旨とねらい

生活委員会は、生徒の生活環境面等について保護者が改善に向けて活動することを目的としており、活動を検討する過程で、生徒の危機意識の薄さが問題となった。不審者の話はよく聞いているし、学校でも放送等で知らされるので、情報としては多く持っている。しかし、自分には関係ない世界のこと、人ごととして捉えており、自分がそういう場面に遭遇したらどうするかという所までは考えが及んでいない。そういう実態が委員会で報告された。

そこで、身近な例を挙げ自分のこととして受け止めることと、いざというときどうすればいいかということ指導しようということになり、生徒にとって身近な事案や、いざというときの対処法等について、警察に指導を依頼することにした。

(3) 保護者の作る防犯セミナー

原案等はPTA役員の保護者が作り、渉外等もできるだけ保護者が行う。当日の準備、司会進行も保護者が行う。また、広く、保護者にも参加を呼びかけることにした。これは、多くの保護者に地域の実態を知ってもらい、子どもと一緒に被害防止を考えて欲しいとの思いからである。

2 平成16年度取組の内容、計画、方法等

(1) 平成16年度の防犯セミナーの計画

ア 期 日

平成16年10月8日（金）

1・2年生 11時50分開始（50分）

3年生 13時25分開始（50分）

イ 対 象

全校生徒

保護者（保護者は希望者のみ参観）

ウ 目 的

不審者対策を重点に、高校生を取り巻く各種事案への認識を高め、とっさの対応ができることを目指す。

エ 内 容

(ア) 講演

上越地域を中心に、現状を実例・事例をあげて講演してもらう。特に、女子生徒が多いため、狙われやすい服装等も話してもらう。

(イ) 簡単な護身術のデモンストレーション

見本を示してもらい、代表生徒が実際に行う。

オ 警察署との打ち合わせ

打ち合わせでは、「3年生は無理に行わなくてもよいのではないか。講演は20分程度で、発生事例や携帯電話のトラブル、服装などの話でどうか。護身術は離脱のための方法を2つくらい20～30分で説明することでどうか。」等のアドバイスがあった。この打ち合わせにより、当初は60～80分を想定していたセミナーを50分に変更した。3年生については、卒業後、一人暮らしをする者が多いので、将来のことも考えて実施することとした。

(2) 平成16年度防犯セミナーの問題点

全校生徒対象ではあったが、当日の行事の関係で、1・2年生と3年生を午前、午後に分けて行った。しかし、午前の部は人数が多く、護身術のデモンストレーションは見ているだけになってしまった。午後の3年生の部は少し実技を行うことができた。

後日のPTA生活委員会での反省として、「話の内容が具体的で、身近な事件を紹介してもらったので非常に良かったが、ただ聞くだけでは生徒にあまり印象が残らないのではないか。」という意見が出された。次年度については、全員が護身術等の実技を行えるようにしてほしいと、その他の細かい問題点と共に申し送られた。

3 平成17年度取組の内容、計画、方法等

(1) 何を子どもに指導すべきか

平成17年度に入っても不審者の件数は減ることなく続いた。道を尋ね車に乗せようとしたり、公

園で声をかけられ連れて行かれそうになったり、飲食店で突然隣に座られ話しかけられたり、大型店舗内で下半身を露出した不審者に遭遇したりしている。

いずれも大きな被害には至らなかったが、そのときの生徒の対応は十分とは言えないものであった。例えば、事件に遭遇した際に携帯電話で事件を連絡しているが、まず、家庭に連絡し、次に家庭から学校、学校から警察へというパターンが多かった。警察からは、直接電話してもらえれば、現場に急行し、犯人を捕まえることができるかもしれないとアドバイスを受けている。生徒に対しては、まず逃げることに、次に警察に通報することを指導する必要がある。

また、護身術を指導する場合、話を聞くだけとしか見るだけでなく、実際に実技を行う必要がある。

(2) 実施計画の作成に当たって

昨年は全校生徒を対象にセミナーを行ったが、少ない人数で実技を行うことも考慮し、昨年受講した生徒は今年を対象から外し、まだ、受けたことのない1年生を対象にすることにした。

また、実施時期については、夏季休業前に行い、長期休業中の危機回避に役立てたいと考えた。

(3) 平成17年度の防犯セミナーの計画

ア 期 日

平成17年7月6日(水)

12時30分開始 (50分)

イ 対 象

1 学年生徒全員

保護者 (保護者は希望者のみ参観)

ウ 目 的

不審者対策を重点に、高校生を取り巻く各種事案への認識を高め、危険回避と非常時への対応ができることを目指す。

エ 内 容

(ア) 講演

上越地域を中心に、現状を実例・事例をあげて講演してもらおう。

(イ) 簡単な護身術のデモンストレーションと指導を行う。

見本を示してもらい、生徒代表何人かが実際にやる。その後、全員で2人の組を作り、実習する。



(学校長の挨拶)

(4) 当日の運営

司会進行をPTA生活委員会委員長が行い、普段、教職員が司会をしているときとは違った和やかな雰囲気です。会を進めることができました。

最初に学校長が挨拶し、その後、警察官による講演が行われた。

その後、警察官の実技指導担当者が壇上にて生徒2名とともに、まず、デモンストレーションを行い、次に全員で実技指導を行った。

(5) 講演の要旨

講演は、自分の責任で、「自分のことは自分で守る」ということをいくつかの実例を示しながら、以下のような内容について話してもらった。

- ・ 乱暴される要素を作ったのは誰か
…夜中に一人で携帯電話の呼出に出ていく。
- ・ 短いスカート、周りをよく見る…盗撮
- ・ 不審者か否かの判断
…姿でも服装でもない、行動で判断する。



(講演の様子)

- ・大人になるということは、どういうことか。
- …自分の行動に責任を持つ。
- …自分の行動に責任を取る。
- …話をよく聴いて自分の頭で考え判断する。
- …将来のことを考え、自分を規制する。

(間違うと加害者になることもある)

その他に、女性に関わる犯罪発生事例や携帯電話に関わるトラブルなどの話があった。

(6) 護身術の指導

警察官から、身につけているものを利用しての身の守り方、傘を利用しての身の守り方、不審者に腕をつかまれたときの振りほどき方、抱きつかれたときの振りほどき方について、説明後生徒2名によるデモンストレーションを行った。



(説明している様子)



(デモンストレーション：傘の利用)

その後、全員を立たせ、2人1組になって、実技の練習を行った。



(実技：振りほどく練習)



(実技：両腕をつかまれたときの練習)

3 実践の成果

(1) 生徒の感想

次に、生徒の感想をいくつか紹介する。

- 最近、中高生を狙った犯罪が多い中、防犯セミナーを受けてとてもためになりました。いざというときに実行できるというと思います。遅い時間に一人で歩かないように日頃から注意して行きたいです。
- 防犯セミナーを受けて、自分にも起こるかもしれない事件が分かって参考になりました。携帯電話でのトラブルにも気をつけたいです。使う機会があるかは分かりませんが、もし自分の身が危険にさらされるようなことがあったら、教えてもらった護身術で自分の身は自分で守りたいです。
- 今まで知らなかった防犯についての知識を身につけることができ良かったです。役に立つと思います。
- 不審者には近付かないようにするべきだと思います。お話はとてもわかりやすく、より注

意が必要だと思いました。実技指導は分かりやすくするためになるものでした。

- やってみて楽しかった。このようなことをしなくてもいいような街になってほしい。
- 護身術のデモンストレーション及び実技指導では、腕をつかまれたとき、後ろから抱きつかれたときなどの様々な場合において対処できるように指導してもらい、また、それを実際にしてみた。腕をつかまれたときは手を「パー」にして上の方に挙げてつかまれた腕を放したり、自分の体を回転させて放したりなど、最初のでダメなら、またその次の方法でという実際に本当に役立つセミナーだったと思う。
- 最近は大変な人が多いので、とても勉強になりました。腕をつかまれたときの対処法は簡単なものが多かったので覚えやすかったです。身近な道具を使って逃げる方法なども教えてもらいました。友だちと一緒に楽しくできました。
- 不審者に襲われた場合、傘、カバンなど身の回りのもので防ぐ。傘で相手の視界を遮ったり、靴で相手の凶器等から身を守る。それと、防犯ブザーを携帯し、襲われた場合はブザーを鳴らす、叫ぶなどして近くの家へ逃げる。この世の中、危険がたくさんあって、このセミナーは役に立ちました。これを良く覚えて自分の身を守っていきたくと思った。
- 世界中では殺人やテロ、強盗というような多種多様な事件が多い中で、日本では、連れ去りや誘拐などを行う不審者や痴漢、携帯電話での様々なトラブルが多数あり、未成年者の僕たちにとってはとても危険な世の中になり、そんな中で実施された防犯セミナーはとても役立つものになりました。特に、護身術の実技では不審者と遭遇した場合の対処法を大変わかりやすく教えていただき、今後の生活にも生かしていけるので、とてもよい経験になったと思います。このような「防犯セミナー」をいろいろなところで実施して、今の危険な世の中で自分の身は自分で守っていける人を増やしてほしいと思います。
- 7月6日に「防犯セミナー」をしたことは、とても意味のあることだと思います。特に、護身術を覚えてもらったことが印象深いです。これは、誰にでもでき、簡単に不審者から自分の身を守ることができるので、とても勉強になりました。あと、携帯電話に関わるトラブルの話を聞いて、自分も気をつけなくてはならないと

思いました。危険なサイトは開かないようにしたいです。

(2) 実践の成果

生徒の感想文を読むと、「遅い時間に一人で歩かないように日頃から注意したい」、「不審者には近づかないようにするべきだと思う」、「危険なサイトは開かないようにしたい」というように、危機意識を高め、危機を回避するという目標どおりに、生徒の中に日常生活の中で注意していこうという意識の芽生えが見られる。

また、「いざというときに実行できるとよい」、「護身術で自分の身は自分で守りたい」、「襲われた場合は、ブザーを鳴らす、叫ぶなどして近くの家へ逃げる」などの感想から、いざというときに対応できる子を育てるという意図はある程度達成されたと思われる。

実際に、今年度校内に酒に酔った男が入り込んだことがあったが、第一発見者の生徒は、不審者に近づくことはせず、すぐに事務室に連絡に走った。また、職員の対応も生徒から離すように不審者を校外に誘導し、同時に、警察に連絡し、応援を求めるというように、セミナーの成果が発揮され、よいチームワークがとれた。警察の対応も非常に素早いもので、私服警官が5分もしないうちに到着し、校外で不審者に事情聴取したようである。その後もパトカー2台が到着し、必要な捜査にあたった。その際、不審者の侵入ルートと特定と侵入時間の確定に、防犯カメラが役だった。裏門から侵入し、生徒玄関付近へ回っていく様子が克明に記録されていた。この事件の際に、防犯セミナーでの指導が生き、生徒が不審者に近づかなかったことは高く評価できる。

また、生徒が自宅近くのバス停留所でバスを待っていたところ、前から不審な男が近づいてきて、スカートをめくろうとしたので、怖くなって大声を出し、その直後にバスが来たので、バスに乗って難を逃れたという事件があった。この生徒の場合、本人によると、そのときとても怖くて、後から大変な動揺を覚えたというが、とっさのとき、大声を出せたことは自分でも感心していた。ここでも、セミナーでの指導が役立ち、ともすると大きな被害に結びつきかねない事態を回避することができた。

PTA生活委員会では、保護者に対し、スカート丈や携帯電話など生活面の悩みや気になることに関するアンケート調査を行った。この意図は、保

護者の意識を調査するということではあるが、それと共に、短いスカートは盗撮等不審者から狙われやすいことや携帯電話による交友関係の危うさを知ってもらい、危機意識を高め、性犯罪への警鐘とすることにあった。そして、防犯セミナーなどと共に、家庭における意識の啓発につながることを期待したものであった。PTA生活委員会の活動は「防犯セミナー」から始まり、ますます広がっている。このことも成果といえる。

PTA生活委員会主催の保護者の懇談会では、「今日は学校でこんな不審者の放送があった。」と家族に伝える生徒の話など、以前に比べると防犯に関する親子の会話が増えたことなどが話し合わせ、生徒の防犯意識の高まりが実感できた。

4 課題等

(1) 防犯セミナー1年目の課題

1年目（平成16年度）の課題は、問題点のところでも挙げたが、護身術がデモンストレーションで終わってしまったことが課題として残った。また、実施時期は適切であったか、講演により犯罪事例をどれだけ身近に感じたか、防犯セミナーの運営はこれでよいか等が課題となった。例えば、講演のことを実施直後に感想として聞けば、それは覚えているだろう。しかし、その後、いざというときに対応できるように意識されているかといわれれば、疑問である。その検証方法なども課題として残った。いかにセミナーでの指導内容を印象として残すかが一番の課題である。

(2) 防犯セミナー2年目の課題

2年目（平成17年度）は、1年目の課題を受けて計画・実施された。実技指導を行うために対象を1学年に絞る、夏季休業という一番事件に遭いやすいと思われる時期の前に実施する等に配慮した。

実施後の課題としては、次のようなことが挙げられた。

- ・ 1学期でも不審者に遭う事件は起きているので、実施時期はもっと早い時期がよいのではないか。
- ・ 男女一緒に実施しているが、それでよいのか。別の内容のセミナーがあってもよいのではないか。
- ・ もっと具体的に、こういうところには近づかない等の事例を「防犯セミナー」の時だけでなく、学期に1回くらいは何らかの形で生徒に伝えて注意を喚起すべきではないか。

確かに、防犯セミナーを1回行っただけで万全ということはないので、機会ある毎に注意を喚起するという姿勢を持っていることが大事である。日常生活の中で常に意識させるような指導を行いたい。

(3) 保護者の参加について

保護者が発案し、計画を立てて実施してきた行事ではあるが、1年目に対し2年目の保護者の参加者は激減した。不審者による事件は登下校時に限らず起こることなので、もっと保護者にも参加してもらい、共に子どもの安全を守るという意識を持ってもらいたい。

子どもが危険な場所に行かない、近づかない、誘いに乗らないなどは家庭での躰に負うところが大きい。学校だけでなく家庭や地域とも協力して、生徒が被害者となる事件を未然に防ぐことが大きな課題である。

(4) おわりに

生徒の感想にある「防犯セミナーをいろいろなところで実施して、今の危険な世の中で自分の身は自分で守っていける人を増やしてほしい」ということが、一番大切であるという気がする。「自分のことは自分で守る」をスローガンに、今後もしっかりとした不審者対策を学校とPTAで協力して取り組んでいきたい。